

## 会 長 あ い さ つ

会 長 増 田 幸 宏

鹿児島県公立学校事務職員協会は、諸先輩方のこれまでのご尽力により本年度創立65年を迎えることになりました。

前会長より記念誌発刊の提案が行われ、役員会で過去の資料等を調べて参りました。会則は昭和46年7月11日に制定されておりますが、昭和30年度に全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会を本県で初めて開催していることから、この年度には創立していると判断し、この年度の創立といたしました。

これまでの私の協会活動を振り返りますと、平成8年度から県立学校に異動してきた当時は、夏季研究大会を前期、後期の2回開催し、前期は鹿児島支部主催、後期は鹿児島支部以外が輪番で担当しており、指宿、霧島などで宿泊して行う大会となっていました。事務室内でも前期、後期に分かれてほぼ全員がいずれかに参加する雰囲気がありました。

専門部は、調査研究部、研修部、福利厚生部、OA部の4部あり、初任校ではOA部と研修部、2校目では研修部で部長まで経験、3校目で調査研究部で部長まで経験、4校目でOA部とさまざまな経験をさせて頂きました。

研修部では、夏季研究大会の運営を前期、後期とも行い、1日目は、研究発表、グループに分かれての研究討議、意見交換会、2日目は、講演、実務研修が実施され、ベテランの先輩方の貴重なご意見や知識の豊富さに感心させられました。

また、研修部長をさせて頂きました年度には、部員の皆様のご協力により、研究大会時の研究討議の回答をまとめた質疑事項集の大幅な見直しを行い、第2版を発行することができました。

調査研究部では、事務職員必携、一括印刷物、各種様式の校正作業を行い、いろいろな事務処理を幅広く知り、またその年度の規則改正や様式の見直しなどの通知を理解しないと進められない重要な役割があると感じました。

また、調査研究部長をさせて頂きました年度には、事務職員必携が13ギガバイト程度あったものを様式や記載例など大幅に削減し、10ギガバイト以下にしました。省いた様式や記載例は、各種様式の項目にセットでデータとして使える形式にしてホームページにアップしました。合わせて、特別支援学校事務職員会で作成、見直しをしている就学奨励費手続きマニュアルと新規に作成した旅費チェックマニュアルも、追加でホームページに掲載しました。

その後、平成27年度全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会鹿児島大会の実行委員会総務部長、さらに役員として副会長を2年務め、会長として2年目です。事務職員協会の会員としては23年目になりますが、そのうち役職経験がトータル16年目となり、今の自分は事務職員協会によりここまで成長でき、充実した経験をさせて頂いたと感じています。これからも協会会員の皆さん、鹿児島県公立学校事務職員協会のさらなる発展にご協力くださるようよろしくお願いします。

## ～鹿児島県立公立学校事務職員協会65年のあゆみ～

年		内 容	備 考
昭和30年	1955年	鹿児島県立公立学校事務職員協会発足	
昭和30年	1955年	第 4 回 九 州 協 議 会 研 究 大 会 開 催（鹿児島市）	6月21日から23日
昭和38年	1963年	第 1 1 回 九 州 協 議 会 研 究 大 会 開 催（鹿児島市）	6月27日から29日
昭和45年	1970年	第 1 8 回 九 州 協 議 会 研 究 大 会 開 催（鹿児島市）	7月27日から31日
		第 2 3 回 全 国 公 立 高 等 学 校 事 務 職 員 研 究 大 会（"）	7月28日から31日
昭和53年	1978年	第 2 6 回 九 州 協 議 会 研 究 大 会 開 催（鹿児島市）	6月26日から28日
昭和60年	1985年	第 3 3 回 九 州 協 議 会 研 究 大 会 開 催（鹿児島市）	6月24日から26日
平成 4 年	1993年	第 4 0 回 九 州 協 議 会 研 究 大 会 開 催（鹿児島市）	6月16日から18日
平成12年	2001年	第 4 8 回 九 州 協 議 会 研 究 大 会 開 催（鹿児島市）	6月14日から16日
平成19年	2008年	第 5 5 回 九 州 協 議 会 研 究 大 会 開 催（鹿児島市）	6月13日から15日
平成27年	2016年	第 6 3 回 九 州 協 議 会 研 究 大 会 開 催（鹿児島市）	6月10日から12日

# 鹿児島県立公立学校事務職員協会 歴代会長一覧

＜平成7年度～令和3年度＞

年 度	会長就任年月日	会 長 名	所 属
平成7年度	平成7年8月11日	桑代 貞雄	錦江湾高等学校
平成8年度	平成8年8月2日	江尻 康夫	松陽高等学校
平成9年度	平成9年7月25日	江尻 康夫	松陽高等学校
平成10年度	平成10年8月7日	江尻 康夫	松陽高等学校
平成11年度	平成11年7月28日	濱之上 勲	鹿児島南高等学校
平成12年度	平成12年7月28日	濱崎 琢也	鹿児島東高等学校
平成13年度	平成13年8月3日	濱崎 琢也	鹿児島東高等学校
平成14年度	平成14年7月26日	梅北 克己	甲陵高等学校
平成15年度	平成15年7月25日	梅北 克己	鹿児島南高等学校
平成16年度	平成16年7月23日	宮之前 忍	開陽高等学校
平成17年度	平成17年8月5日	宮之前 忍	開陽高等学校
平成18年度	平成18年8月4日	宮之前 忍	国分高等学校
平成19年度	平成19年8月10日	枇杷 雄二	鹿児島盲学校
平成20年度	平成20年8月8日	久保 賢治	錦江湾高等学校
平成21年度	平成21年7月24日	土井 信広	鹿児島聾学校
平成22年度	平成22年7月23日	土井 信広	鹿児島聾学校
平成23年度	平成23年8月5日	内田 晃	川内商工高等学校
平成24年度	平成24年8月3日	内田 晃	川内商工高等学校
平成25年度	平成25年8月2日	上野 佳子	山川高等学校
平成26年度	平成26年8月1日	上野 佳子	薩摩中央高等学校
平成27年度	平成27年7月31日	上野 佳子	薩摩中央高等学校
平成28年度	平成28年7月22日	松野 浩次	穎娃高等学校
平成29年度	平成29年8月8日	松野 浩次	桜丘養護学校
平成30年度	平成30年8月10日	坂ノ上四雄	野田女子高等学校
令和元年度	令和1年7月23日	坂ノ上四雄	野田女子高等学校
令和2年度	令和2年7月1日	増田 幸宏	鹿児島盲学校
令和3年度	令和3年7月30日	増田 幸宏	鹿児島盲学校

## ＊ ＊ つなぐ思い ＊ ＊

坂ノ上 四雄

協会記念誌編纂にあたり、役員並びに編纂委員の皆様に対しまして心より敬意を表します。

私は、昭和54年4月に事務主事補として採用され、7月には”補”が取れまして晴れて正式採用となりました。

その当時の事務処理(業務)はその全てがアナログ時代で、書類作成等はすべて手書き、筆記用具は”つけペン”がまだ存在し、後にボールペンへと変わっていきます。計算は計算機など無く”そろばん”で行っていました。給与の校内控除は連記式の複写用紙を使い手書き手計算であったことを懐かしく思い出します。給料日には小切手を振り出し、複数人数で鹿児島銀行支店に現金を受け取りに行き金種確認のうえ持ち帰り、各個人封筒に現金を封入し手渡していました。旅費も同じく現金で支払っていました。また、授業料徴収の納入状況の消し込み等も手作業で、その当時の先輩方はとても字が綺麗だったことを思い出します。アナログ時代ではありましたが、ゆっくりと時間が流れ、ゆとりある日々であった気がします。

あれから40年の時を経て現代は、全ての業務がパソコンで完結する時代となりました。今やパソコン無しでは仕事になりません。

このような中、事務職員協会はこれまで夏期休業中に前期・後期の研究大会を開催し(支部持ち回りによる大会運営)、昼の研修会、1日目午後は支部対抗バレーボール大会、夜の部の懇親会、2日目午前中の研修等、盛りだくさんの魅力ある充実した2日間でした。私自身毎年この研究大会がとても楽しみで、宿泊・懇親会付きで参加し、多くの方々との交流で、その後の業務遂行に生かされることも多く、この出会いが大きな財産となりました。そして、自分自身のスキルアップに大きく生かされたと考えます。また、開催は支部持ち回りのため鹿児島市内・霧島・指宿・国分・鹿屋・志布志・市比野・長島・阿久根・串木野・吹上等県内各地を訪れることができ、県内を知るとても貴重な機会でもあり、観光気分を味わうこともできました。

専門部活動は、時代とともに変わっていきました。現在は調査研究部と研修部の2部体制になりましたが、昨年以前はOA部を加えた3部体制で永く活動してきました。以前は、これに人事給与部・福利厚生部もあり、多くの会員が何らかの形で協会活動に関わっていました。また、平成23年度からは支部体制も11支部から7支部に再編され現在に至っております。

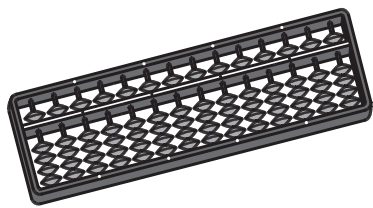
このような中、業務・組織がこの40年で大きく変革した時代に、19年間本部理事として協会活動を引っ張ってこられた田代秀樹氏(故人)はまさに’ミスター協会’として大きく貢献されました。また、直近の平成27年の九

州協議会研究大会鹿児島大会開催には初の女性会長として上野佳子氏が、九州協議会会長を兼任され、持てる力を十二分に発揮しその重責を果たされました。その功績を称えたいと思います。

協会活動は、その第一の目的に「会員相互の親睦」を謳っております。協会活動での多くの出会いにより、仕事を進める上で必要なテクニック・スキルを習得する以上に、広い見識、物事の見方捉え方、企画・立案力、提案（プレゼン）力を学び成長することができると思います。

平成20年度から本部理事として、その後副会長・会長と経験させて戴いたわけですが、会員の皆様のお支えにより無事その役目を果たすことができたと思っております。特に、県外の方々との出会い・交流する機会も増え、更に成長できたと感じております。

平成31年7月の会長就任時には「新たな時代～令和～につなぐ」をテーマに掲げ、試行錯誤を重ねながら取り組んでまいりました。私にとって協会は、「特別な場所」であって、自分の成長に無くてはならないとても大切な場所でした。事務職員協会の「その精神をつなぐ」・「人と人をつなぐ」、「次の時代につなぐ」、この’つなぐ’を、その時代に即した柔軟な発想と、時代の変化に適応した活動を創造・実践し、会員の皆様の更なる研鑽と奮闘により、事務職員協会の益々の発展を心からお祈りいたします。





## 「事務職員協会 ありがとう」

松 野 浩 次

鹿児島県公立学校事務職員協会は、昭和30年に九州協議会研究大会鹿児島大会を開催してから66年を迎え、発展を遂げてきましたことを心からお祝い申し上げます。

また、これまで協会を支えてくださいました先輩諸氏の多大なる御尽力に感謝申し上げます。

私は昭和52年に学校事務職員として採用され、喜界高校に赴任しました。夏休み期間に開催される協会主催の研究大会は、出張で参加できる最大の楽しみでした。

その頃は、1泊2日の日程(前期・後期の2回開催)で多数の参加があり、1日目の研究会後に支部別の対抗スポーツ交流会(バレーボール)で汗を流してから懇親会があり、夜遅くまで飲み会が弾みました。研究会・スポーツ・懇親会でたくさんの人を知り、交流を拓けることができました。

今日まで楽しく仕事を続けられるのも、こうした事務職員協会の研究大会等での多くの出会いが土台になっていると感じます。

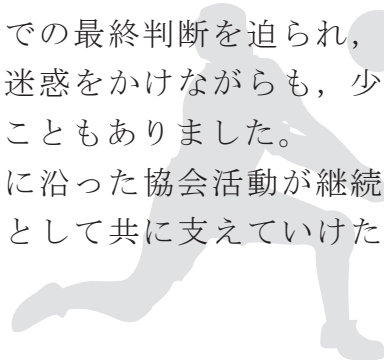
また、各支部から選出された理事・専門部委員の一員として協会活動にも参加することになり、貴重な経験をすることができました。平成28年7月から平成30年7月までの2年間は、皆様の御協力を頂きながら会長職を担いました。お世話になりました。

その中で最も印象深いのは研究大会の見直しです。少子高齢化が進み、学校数・会員数も減少する中、協会活動の見直しの一環として「研究大会の在り方」を検討し、会員の皆様へのアンケート及び支部代表者会を経て、平成29年総会にて年1回の研究大会開催を決議し、平成30年からは年1回開催となりました。

私個人としては、先輩方が永年をかけて築いてくださった、必ずみんなが前期か後期かの研究大会に参加できる体制を継続したかったのですが、断腸の思いでした。

それと、台風です。研究大会は夏休み期間に開催されるため、台風がいつ襲ってくるかが心配の種です。実際に、私も大会間近での最終判断を迫られ、講演会の外部講師や離島から参加される会員の皆様に迷惑をかけながらも、少し逸れてくれた台風の進路に助けられ、開催に至ったこともありました。

これからも幾多の変遷を経ながらも、会員の皆様に沿った協会活動が継続されることと思います。再任用中の私も、協会の一員として共に支えていけると願っています。



## 創立 6 5 年を迎えて

上 野 佳 子

事務職員協会が創立 6 5 年を迎えて、これまで協会の運営に尽力されて来られた多くの会員の皆さんにお礼を申し上げます。

私は、昭和 5 9 年(1984 年)伊敷町にあった鹿児島盲学校に赴任しました。協会の思い出はそこから始まります。その後 6 校に勤務しましたが、研究大会や OA 部の研修会の準備運営・事務必携の作成などに関わることになり、これまで様々な活動をしてこられた多くの先輩の皆さんの努力を知るとともに、協会活動の歴史の一端にも触れることが出来ました。この度創立 6 5 周年を記念して協会史を発行されるとお聞きして大変楽しみにしています。

盲学校の赴任早々に自主検査の補助として他校を訪問することになり、仕事はよく分からないまま同席するというだけで大変緊張したことを懐かしく思い出します。訪問したのは鹿児島西高校で全日・定時・通信があって事務職員数も多いことからまず驚きました。自主検査の実施とともに日頃の業務について資料を交換して再確認をしたり、疑問点を互いに話し合ったりすることができましたので、仕事をすすめる上で大変助けていただきました。その後は、教育現場のみならず広く行われるようになりまし、同じ校種間の相互訪問も行われるようになりました。それぞれの支部が各校の事務職員数などを考えて年間計画をされたことで円滑に行われていたのだと思っています。

平成 2 7 年(2015 年)には、第 63 回九州協議会研究大会鹿児島大会がウェルビューかごしまにおいて開催されました。2 年以上の準備期間を経て、夏の開催で台風の影響も大変心配しましたが、各県から多数の参加者を迎えて、予定どおり全日程を行うことが出来ました。九州協議会会長として会員に支えられて、大役を務めたことも私には大変貴重な経験となりました。

今は、事務改善が叫ばれて専門性がますます要求されてきているようですが、事務室からは常に学校改革のさわやかな風を吹かせてくださるようお願いします。そして会員一人一人が協会の活動に積極的に参加・協力していただきたい。協会のますますの充実と発展を心からお祈りいたします。



## 思 い 出

内 田 晃

私は土井会長の後を継ぎ、平成23年度総会から平成25年度総会までの2年間、会長として協会の運営に携わりました。

最初、このお話しを伺ったとき、こんな自分には荷が重すぎるのではないかと不安ばかりが頭をよぎりました。しかし、今までお世話になった協会のために何か自分にできることがあるのであればと思い、お引き受けしました。特に会長を務めるにあたっては会議等で学校を空けることも多くなり、大変でしたが、当時の事務室の皆様をはじめとする協会の皆様方のご協力もあり、二年間の任期を無事遂げられたこと、本当に感謝しています。

さて、私が本県職員として採用された頃は、事務職員も500人ほどいました。研究大会の開催通知が届くと、それぞれの事務室で前期・後期の希望を取り、半分ずつに分かれて事務室全員で参加をしていました。今は年1回の開催となり、参加する機会が減りましたが、特に若い事務職員にとって貴重な研鑽の場になるので、学校の実情に応じて、参加してほしいです。

研究大会では毎年、素晴らしい研究発表がされてきました。私も経験の浅いときからそのときの仕事に役立つ研究発表を参考にしながら、仕事をしてきて大変、助かりました。そして、何よりの楽しみは夜の懇親会でした。毎年のように懇親会に参加し、先輩方や同僚たちと仕事の話はそこそこに、プライベートなことを語り合い、時には話の盛り上がりにお酒も合わせて進んでしまい、飲み過ぎることもありました。そういったかたちでその時々知り合った方々に仕事やそれ以外の場面でも大きく助けられ、私の人生のなかの財産となりました。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、多くの研究大会が中止になっています。他の研修会もリモート開催が多くなり、皆さんと実際にお目にかかり、親交を深める機会が失われていることは私自身とても寂しく思います。また、未来ある若手職員にこういった機会を提供できないことをもどかしく思っています。もうしばらく、こういった状況は続くのではないかと予想されていますが、事態が落ち着いたときには積極的にコミュニケーションを(飲みながら)とって、楽しく仕事をさせていただきたいと思います。

最後に会員皆様方のご協力で、協会が益々発展していくことをお祈りいたします。





# 役員及び専門部組織表

その1

令和3年度

R3.7.30

会 長	増田 幸宏	鹿児島盲							
調査研究部									
研 修 部									
( I T 班 )									
副 会 長	有村 光代	国 分	原 田 仁	鹿屋工業	柳 正和	鶴 丸	福永伸一	南 大 隅	
部 長	朝隈 久美子	薩南工業	住吉 弘典	鹿 屋					
本 部 理 事	本吉 恵	出水養護					元木 円佳	鹿児島盲	

令和2年度

R2.7.1

会 長	増田 幸宏	鹿児島盲							
調査研究部									
研 修 部									
〇 A 部									
副 会 長	有村 光代	国 分	原 田 仁	鹿屋工業	迫 貴志	鶴 丸	福永伸一	大 口	
部 長	木原 嘉孝	明 桜 館	住吉 弘典	鹿 屋	内田 泰司	川内商工			
本 部 理 事	元木 円佳	鹿児島盲	原田 久恵	川 内	本吉 恵	出水養護			

令和元年度

R1.7.23

会 長	坂ノ上 四雄	野田女子							
調査研究部									
研 修 部									
〇 A 部									
副 会 長	有村 光代	国 分	増田 幸宏	鹿屋工業	迫 貴志	鶴 丸	福永伸一	大 口	
部 長	柳 正和	鶴 丸	斜木 修	市来農芸	赤松 美佳	牧之原養護			
本 部 理 事	本吉 恵	出水養護	原田 久恵	川 内	萩原 麻緒	野田女子			

平成30年度

H30.8.10

会 長	坂ノ上 四雄	野田女子							
調査研究部									
研 修 部									
〇 A 部									
副 会 長	有村 光代	加 世 田	大園 義三	鶴 丸	増田 幸宏	鹿屋工業			
部 長	山崎 敬伍	鹿児島水産	神園 彩子	鹿屋養護	福森 健一	志 布 志			
本 部 理 事	本吉 恵	出水養護	原田 久恵	川 内	萩原 麻緒	野田女子			

平成29年度

H29.8.8

会 長	松野 浩次	桜丘養護							
調査研究部									
研 修 部									
〇 A 部									
副 会 長	有村 光代	加 世 田	坂ノ上 四雄	串良商業	春花 政浩	鶴 丸			
部 長	上片平 正明	甲 南	大園 義三	鶴 丸	福森 健一	志 布 志			
本 部 理 事	上堀内 久恵	川 内	福永伸一	開 陽	本吉 恵	出水養護			

平成28年度

H28.7.22

会 長	松野 浩次	額 娃							
調査研究部									
研 修 部									
〇 A 部									
副 会 長	有村 光代	加 世 田	坂ノ上 四雄	串良商業	春花 政浩	鶴 丸			
部 長	竹之内 守	出水養護	若松 健児	鹿児島中央	中屋 健指	宿 宿			
本 部 理 事	本吉 恵	鹿児島聾	福永伸一	開 陽	上堀内 久恵	川 内	村瀬 昭博	薩摩中央	

平成27年度

H27.7.31

会 長	上野 佳子	薩摩中央							
調査研究部									
研 修 部									
〇 A 部									
副 会 長	松野 浩次	額 娃	坂ノ上 四雄	串良商業	有村 浩二	鶴 丸			
部 長	川崎 かつ子	出水養護	山本 富士雄	鹿児島工業	福永 健志	川内商工			
本 部 理 事	原田 仁	牧之原養護	本吉 恵	鹿児島聾			村瀬 昭博	薩摩中央	
(九州大会実行委員会担当)							福永伸一	伊 集 院	

# 役員及び専門部組織表

## その2

平成26年度

H26.8.1

会 長	上野 佳子	薩摩中央							
	調査研究部		研 修 部		O A 部				
副 会 長	有村 浩二	鶴 丸	松野 浩次	額 娃	中村 伸一郎	南 薩 養 護			
部 長	原 田 仁	牧之原養護	山本 富士雄	鹿児島工業	森 川 芳 秋	川 内 商 工			
本 部 理 事	坂ノ上四雄	鹿児島養護	本 吉 恵	鹿 児 島 聾	福 永 健 志	霧 島			
(九州大会実行委員会担当)							大久保 浩子	薩摩中央	
							福 永 伸 一	伊 集 院	

平成25年度

H25.8.2

会 長	上野 佳子	薩摩中央							
	調査研究部		研 修 部		O A 部				
副 会 長	早瀬 和俊	鶴 丸	中村 伸一郎	南 薩 養 護	松野 浩次	加 治 木 養 護			
部 長	原 田 仁	牧之原養護	鮎 川 典子	加世田常潤	池 田 隆 一	額 娃			
本 部 理 事	坂ノ上四雄	鹿児島養護	本 吉 恵	鹿 児 島 聾	増 本 葉 月	川 内 商 工			
(九州大会実行委員会担当)							福 永 伸 一	伊 集 院	

平成24年度

H24.8.3

会 長	内 田 晃	川 内 商 工							
	調査研究部		研 修 部		O A 部				
副 会 長	西 川 幸 弘	大 口	中村 伸一郎	南 薩 養 護	上野 佳子	山 川			
部 長	増 田 幸 宏	加 治 木 養 護	岩 元 耕 太 郎	薩 摩 中 央	福 永 伸 一	伊 集 院			
本 部 理 事	坂ノ上四雄	鹿児島養護	本 吉 恵	鹿 児 島 聾	増 本 葉 月	川 内 商 工			

平成23年度

H23.8.5

会 長	内 田 晃	川 内 商 工							
	調査研究部		研 修 部		O A 部				
副 会 長	西 川 幸 弘	大 口	中村 伸一郎	南 薩 養 護	上野 佳子	山 川			
部 長	本 松 益 美	開 陽	岩 元 耕 太 郎	薩 摩 中 央	福 永 伸 一	伊 集 院			
本 部 理 事	轟 木 麻 利	川 内 商 工	本 吉 恵	鹿 児 島 聾					
			坂ノ上四雄	武 岡 台					

平成22年度

H22.7.23

会 長	土 井 信 広	鹿 児 島 聾							
	調査研究部		研 修 部		O A 部				
副 会 長	西 川 幸 弘	甲 陵	内 田 晃	加 世 田	寺 園 二 恵	出 水 養 護			
部 長	吉 崎 徳 子	鹿 屋 工 業	原 田 仁	福 山	榎 田 聡 吹	上			
本 部 理 事			坂ノ上四雄	武 岡 台			児玉 健一郎	鹿 児 島 聾	

平成21年度

H21.7.24

会 長	土 井 信 広	鹿 児 島 聾							
	調査研究部		研 修 部		O A 部				
副 会 長	西 川 幸 弘	甲 陵	内 田 晃	加 世 田	寺 園 二 恵	出 水 養 護			
部 長	吉 崎 徳 子	鹿 屋 工 業	原 田 仁	福 山	鮫 島 宏 規	加世田常潤			
本 部 理 事			坂ノ上四雄	武 岡 台			児玉 健一郎	鹿 児 島 聾	

平成20年度

H20.8.8

会 長	久 保 賢 治	錦 江 湾							
	調査研究部		研 修 部		O A 部				
副 会 長	宮 崎 眞 理 子	鹿 屋 養 護	土 井 信 広	鹿 児 島 聾	大 津 修 一	鹿 児 島 南			
部 長	米 永 利 治	武 岡 台	高 城 典 宏	松 陽	染 川 昌 輝	薩 南 工 業			
本 部 理 事			坂ノ上四雄	入 来 商 業			宮 原 伸 也	錦 江 湾	

# 役員及び専門部組織表

# その3

## 平成19年度

H19.8.10

会 長	枇杷 雄二	鹿 児 島 盲					
	調査研究部		研 修 部		O A 部		
副 会 長	宮崎 真理子	鹿 屋 養 護	久 保 賢 治	錦 江 湾	瀬 戸 口 学	鹿 児 島 工 業	
部 長	松 野 浩 次	伊 集 院	谷 村 孝 美	武 岡 台	酒 本 晴 男	末 吉	
本 部 理 事	美 座 秀 成	国 分	田 代 秀 樹	皆 与 志 養 護	美 座 秀 成	国 分	

## 平成18年度

H18.8.4

会 長	宮 之 前 忍	国 分					
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部
副 会 長	宮崎 真理子	山 川	枇 杷 雄 二	鹿 児 島 盲	瀬 戸 口 学	鹿 児 島 工 業	—
部 長	精 松 房 男	武 岡 台	末 廣 卓 也	鹿 屋 養 護	小 脇 敏 典	甲 南	政 倉 孝 弘 開 陽
本 部 理 事	美 座 秀 成	国 分	田 代 秀 樹	皆 与 志 養 護	美 座 秀 成	国 分	田 代 秀 樹 皆 与 志 養 護

## 平成17年度

H17.8.5

会 長	宮 之 前 忍	開 陽					
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部
副 会 長	宮崎 真理子	山 川	久 保 森 廣	鹿 児 島 西	中 村 伸 一 郎	鹿 児 島 中 央	—
部 長	梶 原 成 人	加 治 木 工 業	増 田 幸 宏	鹿 児 島 養 護	飛 田 泰 行	甲 南	三 垣 一 彦 鹿 児 島 養 護
本 部 理 事	萩 元 仁	開 陽	田 代 秀 樹	皆 与 志 養 護	萩 元 仁	開 陽	田 代 秀 樹 皆 与 志 養 護

## 平成16年度

H16.7.23

会 長	宮 之 前 忍	開 陽					
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部
副 会 長	宮崎 真理子	山 川	久 保 森 廣	鹿 児 島 西	昇 章 一	武 岡 台	—
部 長	有 村 浩 二	松 陽	熊 谷 悟	鹿 児 島 豊	谷 口 静 二 郎	甲 南	梅 田 正 嗣 出 水 養 護
本 部 理 事	萩 元 仁	開 陽	田 代 秀 樹	加 治 木 工 業	萩 元 仁	開 陽	田 代 秀 樹 加 治 木 工 業

## 平成15年度

H15.7.25

会 長	梅 北 克 己	鹿 児 島 南					
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部
副 会 長	宮崎 真理子	福 山	宮 之 前 忍	開 陽	昇 章 一	武 岡 台	—
部 長	迫 須 美 義	甲 南	大 茂 康 男	串 木 野 養 護	谷 口 静 二 郎	甲 南	鎌 田 康 典 隼 人 工 業
本 部 理 事	久 保 博 之	鹿 児 島 南	田 代 秀 樹	加 治 木 工 業	久 保 博 之	鹿 児 島 南	田 代 秀 樹 加 治 木 工 業

## 平成14年度

H14.7.26

会 長	梅 北 克 己	甲 陵					
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部
副 会 長	宮崎 真理子	福 山	宮 之 前 忍	開 陽	昇 章 一	武 岡 台	—
部 長	山 脇 香 織	甲 南	益 森 康 男	樋 脇	谷 口 静 二 郎	甲 南	油 田 喜 久 男 指 宿 養 護
本 部 理 事	前 田 誠	甲 陵	田 代 秀 樹	加 治 木 工 業	前 田 誠	甲 陵	田 代 秀 樹 加 治 木 工 業

## 平成13年度

H13.8.3

会 長	濱 崎 琢 也	鹿 児 島 東					
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部
副 会 長	梅 北 克 己	甲 陵	宮 之 前 忍	蒲 生	惠 島 康 仁	松 陽	—
部 長	深 野 木 壽 志	川 内 商 工	荒 瀬 勝 己	鶴 丸	園 田 悟	錦 江 湾	山 脇 香 織 甲 南
本 部 理 事	木 場 久 伸	鹿 児 島 東	田 代 秀 樹	加 治 木 工 業	木 場 久 伸	鹿 児 島 東	田 代 秀 樹 加 治 木 工 業

# 役員及び専門部組織表

## その4

平成12年度

H12.7.28

会 長	濱 崎 琢 也	鹿 児 島 東							
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部		
副 会 長	惠 島 康 仁	松 陽	宮 之 前 忍	蒲 生	梅 北 克 己	甲 陵	—		
部 長	小 園 重 二	鹿 児 島 工 業	橋 口 義 和	加 治 木	田 尾 宏 造	伊 集 院	橋 元 重 二	鶴 丸	
本 部 理 事	木 場 久 伸	鹿 児 島 東	田 代 秀 樹	加 治 木 工 業	木 場 久 伸	鹿 児 島 東	田 代 秀 樹	加 治 木 工 業	

平成11年度

H11.7.28

会 長	濱 之 上 勲	鹿 児 島 南							
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部		
副 会 長	鞍 本 孝 一	鹿 児 島 東	宮 之 前 忍	蒲 生	—	—	—		
	古 川 正 人	錦 江 湾							
部 長	隈 元 良 守	鹿 児 島 盲	久 保 豊 孝	錦 江 湾	新 橋 伊 津 子	甲 南	有 川 大 洋	宮 之 城	
本 部 理 事	瀬 戸 口 学	鹿 児 島 南	田 代 秀 樹	加 治 木 工 業	瀬 戸 口 学	鹿 児 島 南	田 代 秀 樹	加 治 木 工 業	

平成10年度

H10.8.7

会 長	江 尻 康 夫	松 陽							
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部		
副 会 長	野 口 進 一	枕 崎	松 元 晴 海	鹿 屋	—	—	—		
部 長	大 茂 康 男	鹿 児 島 中 央	安 田 義 文	鶴 丸	野 村 雄 作	錦 江 湾	中 宅 間 か お り	薩 南 工 業	
本 部 理 事	—	—	田 代 秀 樹	加 治 木 工 業	宮 脇 ま ゆ み	松 陽	—	—	

平成9年度

H9.7.25

会 長	江 尻 康 夫	松 陽							
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部		
副 会 長	野 口 進 一	甲 陵	松 元 晴 海	鹿 屋	野 口 進 一	甲 陵	—		
部 長	大 茂 康 男	鹿 児 島 中 央	片 平 真 知 子	加 世 田	野 村 雄 作	錦 江 湾	花 田 美 也 子	串 木 野 養 護	
本 部 理 事	田 代 秀 樹	鹿 児 島 西	—	—	宮 脇 ま ゆ み	松 陽	—	—	

平成8年度

H8.8.2

会 長	江 尻 康 夫	松 陽							
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部		
副 会 長	野 口 進 一	甲 陵	松 元 晴 海	国 分	野 口 進 一	甲 陵	—		
部 長	木 場 久 伸	鹿 児 島 東	片 平 真 知 子	市 来 農 芸	坂 元 拓 郎	額 娃	西 原 小 巻	笠 沙	
本 部 理 事	田 代 秀 樹	鹿 児 島 西	—	—	宮 脇 ま ゆ み	松 陽	—	—	

平成7年度

H7.8.11

会 長	桑 代 貞 雄	錦 江 湾							
	調査研究部		研 修 部		O A 部		福利厚生部		
副 会 長	野 口 進 一	甲 陵	江 尻 康 夫	川 内	—	—	—		
部 長	大 茂 康 男	鹿 児 島 中 央	元 川 孝 二	山 川	大 原 兼 一	川 内 商 工	坂 口 満	財 部	
本 部 理 事	田 代 秀 樹	鹿 児 島 西	—	—	有 川 大 洋	錦 江 湾	—	—	

## 研究大会研究発表テーマ及び発表者一覧

		テ　　マ	支部名	学　校　名	発　表　者
担当: 鹿児島支部B班 H18. 8. 3～4 ホテル霧島キャッスル		「学校事務における個人情報保護」 ～窓口業務をととしての課題～	鹿児島 A 班	錦 江 湾 鹿 児 島 聾	事務主査 福永 伸一さん 事務主査 児玉 健一郎さん
担当: 川辺指宿支部 H18. 8. 17～18 指宿会場ホテル	九州	「とある学校事務室の一日」	鹿児島 B 班	武 岡 台	事務主査 田中久美子さん 事務主査 米永 利治さんほか
18年度		【就学奨励費はこわくない】	鹿児島 C 班	鹿 児 島 盲	事務主査 岩切 隆宏さん
担当: 鹿児島支部C班		「文書管理事務について」	指 宿	穎 娃	事務主査 内田 周三さん
H19. 8. 9～10 ホテルウェルビューかごしま		「授業料徴収事務と担任の関わり」	川 辺	鹿児島水産	事務主事 中村 祐輔さん
19年度		「快適な職場環境作りを目指して… セクハラのない職場に」	日 置	市 来 農 芸	事務主査 竹之内 守さん
担当: 出水川薩支部 H20. 8. 7～8 ホテルウェルビューかごしま		「これからの事務職員像」	川 薩	薩 摩 中 央	事務主査 有水 英和さん
担当: 大隅支部 H20. 8. 18～19 リナシティかのや		「再編整備とアクセス(事例紹介)」	出 水	出 水	事務主事 飯屋 浩二さん
		「棚卸資産会計における一考察」	曾 於	有 明	事務主査 徳留 智彦さん
20年度		「用務員の一日～特別支援学校編」		武岡台養護	用務員(介助担当) 梶原 豪さん
担当: 鹿児島支部A班 H21. 7. 23～24 ホテルウェルビューかごしま	九州	「ひと目で分かる事務の流れ」 -体験談から学ぶ事務処理-	始 良 伊 佐	大 口 伊 佐 農 林	事務主査 藤山 美津枝さん 事務主任 徳留 美香さん
担当: 始良伊佐支部 H21. 8. 17～18 国分シビックセンター		「環境問題とエコロジー」	始 良 伊 佐	国 分	事務主査 美座 秀成さん
21年度		「校内樹木の害虫被害の現状と対策」 -亜熱帯地域北上中-	始 良 伊 佐	加 治 木	専門員 備 高磨さん
担当: 鹿児島支部B班 H22. 7. 22～23 ホテルウェルビューかごしま		「エコ活動における学校の取り組み」	肝 属	鹿 屋 養 護	事務次長 上野 利一さん 事務主事 柳田 昌紀さん
担当: 指宿川辺支部 H22. 8. 23～24 指宿海上ホテル		「経費節約の現状と今後の展望について」	熊 毛	種 子 島	事務主査 伊地知 悦雄さん
22年度	九州	「電子化はできんか。ボクは電じ か！？」～電子データ化した文書管 理による業務の効率化～	大 島	大 奄 島 古 仁 美 屋	事務主査 山本 富士雄 事務主事 前迫 卓也さん 事務主任 入田 豊子さん



		テ　　マ	支 部 名	学 校 名	発 表 者
担当: 鹿児島支部C班 H23. 8. 4～5 ホテルウェルビューかごしま		「事務室による『学校評価』を自覚した」学校改善についての一考察」	鹿児島 B 班	甲 南	事務次長 西本 健二さん
担当: 北薩支部 H23. 8. 22～23 湖畔リゾートホテルいむた	九州	「学校徴収金取扱いについて」 一事務処理効率化と学校に現金を 保管させないためにー	鹿児島 A 班	鹿児島工業 丸陽 鶴松	事務主事 濱元亮太さん 専門員 有村 光代さん 事務主査 飛田 泰行さん
23年度	視察 報告				
担当: 鹿児島支部A班 H24. 8. 2～3 ホテルウェルビューかごしま		「学校徴収金取扱いに係る取り組み 及び本支部の現況について」	始 良 伊 佐	霧 島	事務次長 今村 瑞代さん
担当: 大隅支部 H24. 8. 23～24 リナシティかのや	九州	「将来の学校事務」意識調査を通して	南 薩	枕 川 崎 辺	事務主事 吉田 騰さん 事務主事 有村 昌子さん
24年度	視察 報告	県外報告「平成23年度県外視察報告」	大 島	大 島	事務主査 山本 富士雄さん
担当: 鹿児島支部B班 H25. 8. 1～2 ホテルウェルビューかごしま	全国	「九州新幹線の全線開通に伴う学校 への影響について」	北 薩	薩 摩 中 央	事務主任 石神 陽子さん 他2名
担当: 始良伊佐支部 H25. 8. 26～27 国分シビックセンター	九州	「学校職員のビジネスマナーについ て」	大 隅	有 明	事務主事 川崎 亮さん 他2名
25年度	視察 報告	「エコスクールについて」	大 隅	垂 水	事務主事 清藤 直さん 他1名
担当: 鹿児島支部C班 H26. 7. 31～8. 1 ホテルウェルビューかごしま	九州	「事務室を出て気づくこと ～設備、備品、生徒etc～」	熊 毛	中種子養護 種子島 種子島中央 屋久島	専門員 川崎 かつ子さん 事務次長 有村 光代さん 専門員 上野 和美さん 事務次長 塩屋 孝子さん
担当: 南薩支部 H26. 8. 25～26 指宿シーサイドホテル		「これから私たちがやるべきこと ～職種転換・義務制からの任命換えを 経て～」	大 島	大 島 北 奄 古 美 仁 屋	事務主査 村山 裕美さん 事務主任 田原 亮さん 事務主任 上原 隆寛さん
26年度	視察 報告	「九州新幹線の全線開通に伴う学校 への影響について」	北 薩	市 来 農 芸	事務主査 斜 木 修さん
担当: 北薩支部	(前期)	「特別支援学校校舎の新改築の現状 とこれから」	鹿児島 C 班	鹿児島盲 鹿児島養護	事務主査 松元 龍太さん 事務主事 溝上 竜次さん
H27. 7. 30～31 ホテルウェルビューかごしま	※九州大会 が鹿児島県 での開催の ため(後期) はなし	「とりあえず取り組もう就学支援金」 「効率よく取り組みたい奨学のための 給付金」	鹿児島 A 班	鹿児島工業 市来農芸 串木野丸 鶴	事務主査 古野 貴之さん 事務主査 斜木 修さん 事務主査 鞍掛 良幸さん 事務主事 梶木 賢一郎さん
27年度	視察 報告	熊本県における「校務支援システム」 の運用状況について	南 薩	薩 南 工 業	事務主事 満園 侑紀さん

		テ　　マ	支 部 名	学 校 名	発 表 者
担当： 鹿児島支部A班 H28. 7. 21～22 ホテルウェルビューかごしま	(前期)	「新公会計制度について」	南 薩	枕 崎 加世田常潤	事務主査 吉田 騰 さん 専 門 員 北田 俊也さん
担当： 大隅支部 H28. 8. 22～23 リナシティかのや	(後期)	「就学支援金・・・？」 ～保護者アンケートから みえてくること～	始 良 伊 佐	福 山 加治木工業 牧之原養護	事務主査 岩切 隆宏 さん 事務主査 鮫島史郎 さん 事務主事 新村達也 さん
28年度	視察 報告	「各学校の特色ある事務室の役割に ついて」	鹿 児 島 C 班	鹿 児 島 聾	事務主査 本吉 恵 さん
担当： 鹿児島支部B班 H29. 7. 27～28 ホテルウェルビューかごしま	(前期)	「就学支援金制度4年目を迎えて」 ～市役所との連携の実践及び新入 生・保護者への説明動画の作成～	大 隅	鹿 屋 工 業 曾 於	事務主査 田之上美佳 さん 事務主事 網本有希 さん
担当：始良伊佐支 部 H29. 8. 24～25 霧島市シビックセンター	(後期) 九州	「事務職員ができる防災」 ～緊急災害速報！その時、事務職員 は？～	北 薩	川 内 商 工 川 内 商 工 喜 界	事務次長 福永健志 さん 事務主事 古川未来 さん 事務主事 濱崎愛里 さん
29年度	視察 報告	「熊本県の農業高校を視察して」	熊 毛	種 子 島	事務主事 上塘 禎 さん
担当： 鹿児島支部C班	九州	「大島地区のアツい想い」 ～奄美群島の魅力発信！～	大 島	喜 奄 奄 界 美	事務主事 濱崎愛里 さん 事務主事 舞原由衣 さん
30年度 H30.8.9～10		「チームとしての学校ってなに？」 ～次世代の学校創世への流れの 中で～	熊 毛	種 子 島 種子島中央	事務次長 福山恵一郎 さん 事務主事 阿久根庸平 さん
ホテルウェルビューかごしま	視察 報告	「業務効率化と業務改善について」		薩 摩 中 央 屋 久 島	事務主事 西垂水亜貴 さん 事務主事 日置 淑乃 さん
担当： 南薩支部		「物品管理ネットワーク」	鹿 児 島 B 班	松 陽 鹿 児 島 南	事務次長 下堂蘭 晴美 さん 事務主査 入田 豊子 さん
元年度 R1.7.22～23		「合理的配慮について」 ～入門編～【制度について学ぼう】	鹿 児 島 C 班	鹿 児 島 聾 鹿 児 島 高特支	事務次長 肱黒 恵子 さん 事務主事 福本 洋子さん
ホテルウェルビューかごしま	視察 報告	「静岡県立学校視察報告」 ～学校における業務改善に 関する取り組み～		鹿 屋 養 護 野 田 女 子	事務主任 神園 彩子 さん 事務主事 萩原 麻緒 さん
2年度		《※中止》			
担当： 鹿児島支部A班		事務職員と「学校におけるアクション プラン」(仮)	始 良 伊 佐	加 治 木 加治木工業 隼 人 工 業	事務主事 清川 恵里 さん 事務主事 赤木 稜典 さん 事務主事 生駒 優子 さん
3年度 R3.9.** (書面にて発表)	※大会 は中止	年度末から年度初めまでの業務整理 (仮)	南 薩	加世田常潤 鹿 児 島 水産	事務主査 今原 一成 さん 事務主査 山崎 敬伍 さん
R3.9.** メールにて送信	視察 報告	「高等学校等就学支援金制度の個人 番号導入についての事務室での取り 組み」		鶴 翔 伊 佐 農 林	事務主事 松本 侃丸 さん 事務主事 岡元 浩亮 さん

# 鹿児島県公立学校事務職員協会研究大会講師一覧

No. 1

	前 期	後 期
20 年度	<p>1 日目 (講演) 講師：河野正彦氏 (出水歴史民俗資料館社会教育指導員) 演題：「出水の歴史と島津家について」</p> <p>2 日目 (講話) 講師：山野真理氏 (有)カルチャーコネクション代表取締役) 演題：「接遇マナーについて」</p>	<p>1 日目 (講演) 講師：豊重哲郎氏 (鹿屋市串良町柳谷公民館長) 演題：「旬の活動で己に感動、 社会に貢献」 (講話：事例研究) 講師：教職員課給与係 演題：「給与手当等認定事務について」</p>
21 年度	<p>1 日目 (講演) 講師：中村洋志氏 (星ヶ峯幼稚園園長) 演題：「限りある命の、限りない輝き」</p> <p>2 日目 (講話) 講師：公立学校共済組合鹿児島支部 演題：「年金制度について」</p>	<p>1 日目 (講演) 講師：島津義秀氏 (精矛神社宮司) 演題：「サツマイズム」 (講話) 講師：山本文雄氏 (上野原縄文の森園長) 演題：「ノックのできない校長とヒゲのない村長」</p> <p>2 日目 (講話) 講師：霧島警察署・県警本部職員 演題：「不審者に対する防犯講習」</p>
22 年度	<p>1 日目 (講演) 講師：金孝珍(キムヒョウジン)氏 (開陽高校非常勤講師) 演題：「韓国と鹿児島」 ～様々な国際交流～</p> <p>2 日目 (講話) 講師：山野真理氏 (有)カルチャーコネクション代表取締役) 演題：「接遇マナーについて」</p>	<p>1 日目 (講演) 講師：河末正子氏 (桃色物語 代表) 演題：「コミュニケーションカラー」 ～色から見る人間関係の築き方～</p> <p>(講話) 講師：平川真理子氏 (NPO 法人メンタルア鹿児島代表理事) 演題：「メンタルヘルス講座」 <u>※総務福利課の厚生事業</u></p>
23 年度	<p>1 日目 (講演) 講師：初鹿野 聡 氏 (NPO 法人みんなのくらしターミナル) 演題：「今こそ新しいふれあい社会を」</p>	<p>1 日目 (講演) 講師：今給黎 晃一 氏 (元 鹿児島工業高校 教諭) 演題：「自分が一番劣っていると思えば 何でもできる」</p> <p>2 日目 (講話) 講師：吉崎 徳子 氏 (種子島高校 事務次長) 演題：「学校徴収金ソフト取扱説明」</p>

# 鹿児島県公立学校事務職員協会研究大会講師一覧

No. 2

	前 期	後 期
24年度	<p>1 日目（講演） 講師：宮原 恵津子 氏 （南日本放送 ラジオパーソナリティ） 演題：「話し上手 聞き上手」</p>	<p>1 日目（講演） 講師：水谷 謹人 氏 （みやざき中央新聞 編集長） 演題：「取材の現場から ～心に残ったいい話」</p>
25年度	<p>1 日目（講演） 講師：高崎 達夫 氏 （コクマーケティング株式会社 南九州支店） 演題：「ユニバーサルデザインと 商品開発」 2 日目（講話） 講師：横山 秀樹 氏 （学校施設課 県立学校施設係長） 演題：「予算要望と執行上の注意点」</p>	<p>1 日目（講演） 講師：桃木野 聡 氏 （桃木野総合法律事務所長 弁護士） 演題：「公務員のモラルについて」</p>
26年度	<p>1 日目（講演） 講師：海江田 昌 邦 氏 （元小学校教員） 演題：「定年後の生き甲斐と趣味」</p>	<p>1 日目（講演） 講師：井 口 正 人 氏 （京都大学防災研究所 附属火山活動研究センター長） 演題：「桜島の大正爆発と 学校における危機管理」</p>
27年度	<p>1 日目（講演） 講師：東 川 隆太郎 氏 （NPO法人まちづくり地域フォーラム・鹿児島探検の会） 演題：「伝えたい鹿児島のこと」</p>	<p>最終日（九州大会特別講演） 講師：愛 華 み れ 氏 （女優・薩摩大使） 演題：「チャンスは自分の中に・・・」  ＜第63回全国公立高等学校事務職員協会 九州協議会研究大会 平成27年6月10日～12日＞</p>
28年度	<p>1 日目（講演） 講師：原 口 泉 氏 （鹿児島県立図書館長） 演題：「明治維新と西郷隆盛」</p>	<p>1 日目（講演） 講師：那木 春幸 氏 （（株）樹楽 代表取締役） 演題：「世界に誇れる日本の食文化」</p>

# 鹿児島県公立学校事務職員協会研究大会講師一覧

No. 3

	前 期	後 期
29年度	<p>1日目（講演） 講師：大 木 公 彦 氏 （鹿児島大学名誉教授） 演題：「熊本地震に学ぶ減災教育」</p> <p>2日目（講話） 講師：尾 川 正 洋 氏 （文部科学省：初等中等教育局財務課 教職員配置計画専門官） 演題：「最近の教育行政をめぐる国の 動向（教職員定数を中心として）」</p>	<p>1日目（講演） 講師：鶴ヶ野 実 央 氏 （（株）九州タブチ 代表取締役社長） 演題：「人の成長なくして 企業の成長無し」</p>
30年度	<p>（講演） 講 師 吉 満 庄 司 氏 （明治維新150周年推進室 専門員） 演 題：「薩摩藩と明治維新 ～財政を支えた五代友厚と外交を支えた寺島宗則を中心に～」</p>	
元年度	<p>（講演） 講 師 妹 尾 昌 俊 氏 （教育研究家、学校業務改善アドバイザー（文部科学省委嘱他）） （中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員） 演 題：「本気で進める働き方改革と学校事務職員の役割」</p>	
2年度	<p>※職務内容に関する講話と職務外の講演 をそれぞれ設定する。</p> <p>○職務外の講演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ関係</li> <li>・鹿児島の歴史関係</li> </ul> <p>○職務に関する講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅費システムについて</li> <li>・認定事務について</li> <li>・公有財産事務について</li> <li>・年金制度について</li> <li>・学校徴収金会計事務について</li> <li>・就学支援金について</li> </ul>	
3年度	<p>（講演） 講 師 福 田 賢 治 氏 （前鹿児島市維新ふるさと館 特別顧問） 演 題：「鹿児島の歴史から教育を考える（仮）」</p>	

中止

中止



平成 17 年度の夏季研究大会で大島地区は研究発表の当番で、私は大島郡島内の美しい風景と各学校の特色を紹介した。当時、大島地区の発表は全国、九州地区の発表としない免除的なものであったので気楽に考えていた。

が、後日、事務職員協会長が私の勤務校（奄美高校）に来校され、先日の発表内容を全国大会に作り直して発表してくれという無茶ぶりの依頼だった。一旦は断ったが、非常に困っているような話だったのでしぶしぶ了解した。

来年夏の研究資料の作成に年明けには原稿をどうにか間に合わせてくれとか、1 回目のリハーサルを年末にするのでプレゼンできるようになど、時間がないので注文が多かった。

とりあえずテーマは、「新しい整備構想の校舎改築における事務室の取り組み」と題して、奄美高校の狭隘な敷地に校舎を解体、ローリングしながら 7 階建ての校舎を建てることに事務室が関わっていく内容を発表することとした。

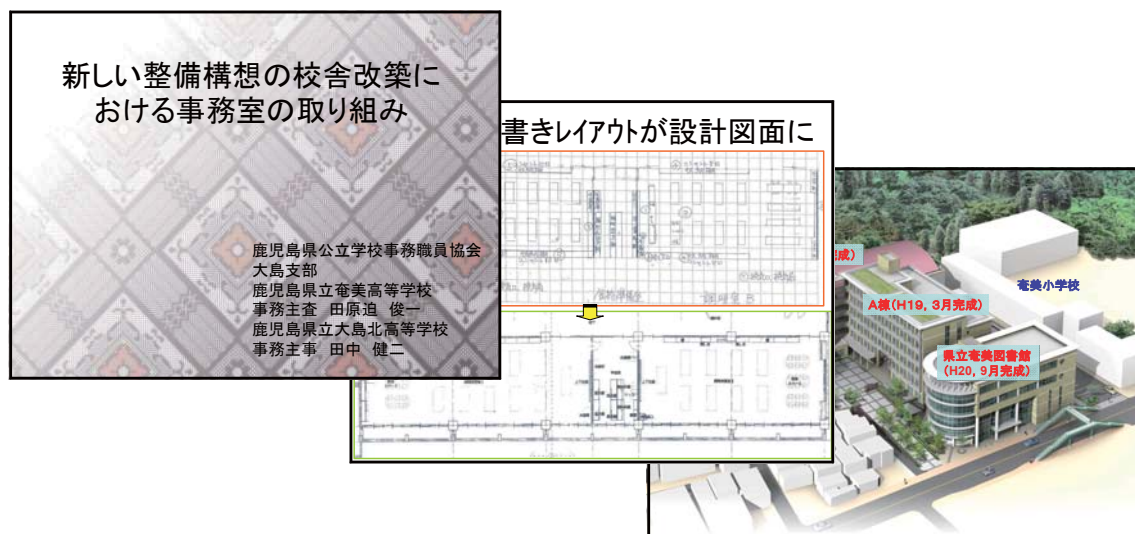
1 回目のリハーサルでは協会の役員の方々から、本気で多くのダメ出しを食らった。私としては、忙しいところ離島からわざわざ来てやってあげてる感があったので、少しいやな気分であった。

しかし、時間が迫るにつれ、洗脳されたようにそのうち本当にこれじゃまずいと思うようになり、また、改築の記録にもなると考え、前向きに取り組んでみた。パワーポイントも校舎が解体される様やローリングに動きを入れるなど工夫した。どうにか、ぎりぎりであったが、完成させた。今となれば短期間によくこなしたなあと思うことであった。

発表が終わった夜は、慰労会があった。多くの方から労いの言葉を頂いて、泡盛が非常に美味しかったのを思い出す。

保存していたプレゼンデータを 15 年ぶり開いてみたが、忘れていたものが思い出されて感慨深く思うことだった。

当時、発表に向けてお世話になった協会の方々、貴重な体験を頂き、感謝申し上げたい。本当にありがとうございました。



## 事務職員協会 65 周年に寄せて 8・6 水害の日

串良商業高等学校 高倉由美

当時私は鹿児島地区の高校に勤務していた。その頃はまだ夏の研究会が毎年 2 回開催されていて、私は霧島会場での研修を終え、他の事務職員たちが声を掛け合って昼食に寄って帰ろうとするのを辞退してまっすぐ帰宅することになっていた。

8 月 1 日、2 日辺りに思川が氾濫したばかりで、無事に帰れるか不安でとにかく早く自宅に帰りたいかった。

空港から高速に乗って順調に走っていたが、加治木で降りるよう指示があり、インターの手前から既に渋滞で、降りた後も止まっては少し、止まっては少しののろのろ運転で、思川を超えるまでは心配ではなかった。

思川を超え、海沿いを走る頃は割とスムーズに流れるようになり、市街地に入っただけで既に 16 時か 17 時くらいだったと思う、昼食を食いっぱぐれていた私はどこかに寄って食べたかったが、簡単に車で立ち寄れるようなコンビニもファストフード店も当時は少なく、また市街地はなんとなく早く離れる方が良い気もして、そのまま走行した。

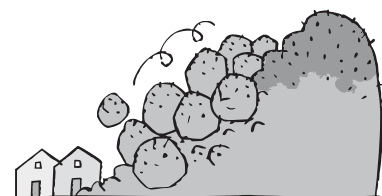
産業道路に入り、もう大丈夫だろうと南警察署あたりのどこかお店に入って遅い昼食兼早めの夕食を取り、自宅まであと 15 分程度、カーラジオを聞きながら帰ろうとエンジンをかけたら、緊迫した声のアナウンサーが一刻も早く帰るよう、また、家が危険なら今すぐ避難をと伝えていた。音声だけでは様子がわからず、家に着いてすぐテレビを付けたら、台風直撃かと思うような冠水した道路や、2 階まで水に浸かった家、そして数時間前に通過した 10 号線が土石流で切られ、多くの車が海に投げ出されている映像も出てきた。

その後は、皆さん様々な報道でご覧になったとおりである。スマホどころか携帯もパソコンすらそんなにない時代、時間が経つにつれ被害の大きさがどんどん明るみになった。

その後

学校の被害は大きなものではなかったが、後日、ミュージシャンの長渕剛氏からいくらかの義援金をいただいた。当時県教委の担当者が直接長渕氏から「子どもたちのために使ってください。」と多額の義援金を手渡され、多くの学校に分配したと聞いている。ふるさと納税などまだ無い頃、東日本大震災、阪神・淡路大震災もまだ起こるずっと前、だった。

鹿児島、大隅、北薩、南薩、離島、始良、伊佐、そして再び大隅へと全ての地区に赴任し、それぞれ大切な思い出があるが、事務職員協会に関連してというならこの日は私の中で忘れられない日のひとつである。



## つなぐ・つながる・つながれば・つながるとき・つながれ!!

出水工業高等学校  
藤山 美津枝

このたびは「協会史」の発行、おめでとうございます。今日のような情勢が変転きわまりない時代に、一つの目標に向かって活動が続けることは、大変なご苦勞を伴うこともあったと推察いたします。今日まで続いていること、それだけで十分に偉大なことだと敬服いたします。みなさまの取り組みに心から感謝申し上げます。

その貴重な1ページに私の思いを綴らせていただきありがとうございます。

すでに遠い昔の思い出になってしまいますが、私が義務制から高校に転換してきた初年度、大口高校で「藤山さんは今年協会の専門部だからね」と、まだよく訳も分からない内から、断る余地などあるはずもなく、第1回目の専門部の集まりに仕方なく出かけました。そして、その年は研修部として夏季研修会を中心に活動しました。これが協会と私の出会いでした。

月一くらいで研修部会があり、質疑事項の取りまとめなど夏季研修会に向けて準備しましたが、なにより、各学校から個性豊かな方々が集合していて、その場で質疑が解決してしまうほど知識豊富な方やそんな人さえおじちゃん呼ばわりする方もいて本当に楽しい時間を過ごしました。毎回会えるのが楽しみでノートいっぱい聞きたいことをためこんで持参し、私の両隣席の方は質問攻めにあいながらも丁寧に答えて下さり、情報収集の場として大いに活用させていただきました。いろんな学校の方々と知り合えたこと、いろんな考え方を知ることができたことが研修部になって一番の収穫でした。ありがとうございました。

この後、2年目からも県大会や九州大会での発表の機会もあり、結局7年間いろんな形で協会に携わっていくことになった訳ですが、悪戦苦闘しながらかなり濃い高校事務のスタートになりました。

話は変わりますが、私がこの10年間で考えてきたことの一つに、残りの人生でこれまで受けてきた多くのことへの感謝をどう返ししていけるかということがあります。そして思い至ったのが「後につなぐ」ということでした。仕事にしろプライベートにしろ、私が受け取ったものを後ろに繋いでいくことが一番のご恩返しにつながるのではないかと思います。10年前から内にあるものをはき出していく作業を実行中です。私から次へ伝えられることは極めて少なく稚拙であるかもしれませんが、私自身も「つなぐ」を実行していこうと、日々、奮闘しています。

「つなぐ」と言えば、私にとって協会とは、「人と人とのつながり」の象徴のような存在です。この数年で協会も大きな転換期を迎え、時代に合わせて形を変えざるを得なくなってきています。2021年9月からデジタル庁が発足し、県も情報政策課がデジタル推進課へと名前を変え、私たちもLINEWORKSを仕事に取り入れ、教育の場にはGIGAスクール構想や校務支援など加速度的に目に見える形でITの波が押し寄せています。これが良い方向に向かっているのか私には分かりません。たぶん、きっと良い方向なのかもしれませんが、私は少し淋しい気持ちと人のつながりが希薄になって、人の顔が見えなくなっていくのではないかという杞憂で不安がたくさんあります。だからこそ、協会は存在し続け、こういう不安を一掃してくれる心強い場所としてあり続けてほしいと願っています。形は変わっても事務職員の必要に寄り添ってくれる、繋がれる場であってほしいと切に願います。まだまだこれからどのように私たちを取り巻く環境が変わるのかわかりませんが、横のつながりを大事にして、日々働けることに喜びを見つけていきたいです。

これからもますます頼りになる協会を持続させて下さい。いや、みんなで力を合わせて次の世代へつなげていきましょう!!



協会活動では、二年間調査研究部で事務必携の編纂に携わり、良い経験をさせて頂きました。また、夏季研究大会は研究発表を聞くことに加え、分科会で様々な意見交換ができる貴重な場となっています。自粛が求められる昨今ですが、協会の活動が今後さらに発展していくことを願っています。

昨年度義務制の学校から転任し、初めての協会の大会で大勢の方々と顔を合わせてお話しできることを楽しみにしていたのですが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、とても残念でした。一日でも早く収束し、大会を会場で開催できることを願っています。

～事務職員協会研修会に参加して～ 額娃高校

事務職員協会の専門部の活動は調査研究部及び研修部で活動した。その時はお互いに手探り状態であったが、諸先輩方に教えてもらいながらの活動であったため、どうにか活動ができ、その後の反省会（懇親会）がまた楽しかった思い出である。

14年ほど前の九州大会の研究発表を2人（私はパソコン操作）で行ったが、慣れないところで多くの人数の前での発表であったこともあり非常に緊張したが、どうにか終わることができ達成感を感じた。色々経験することによって人は成長すると思う。自分も少しは成長したかな？と今思う日々である。退職まであと3年を切ったが、今までの経験を生かしながら、これからは学校事務職員としてどうあるべきか考えながら頑張っていきたい。

大会記念誌コメント 指宿養護学校

私は一般企業での事務経験はあったものの、学校事務は初めてで不安でいっぱいでしたが、事務職員協会を通じて近隣校の事務の先輩方からヒントやアドバイスを頂くことができました。

自主検査等の場もありますが、不安に思っていることや気になることを尋ねることができるので横のつながりがある心強い会だと思います。

自分が手続きした物品や補修等が授業や行事で活用されているのを見ると、微力ながら学校運営に携わることができているのだと実感しています。会を通じて、よりベストな方法を情報交換していきたいです。

枕崎高校に赴任して5年、学校事務職員になって10年目を迎えました。本年度から給与や旅費を担当することになり、前任校時代にやっていた仕事内容を思い出しながら、また雇用保険等前任校ではやったことのないような仕事に関しては資料等で確認をしながら、業務に従事しています。10年目を迎えたが、まだまだ知らないことだらけですし、慣れないことも多いですが、様々な知識を修得し、仕事に活かせるよう頑張っていきたいと思います。

枕崎高校 宮下





## 「1年目で学び，2年目で改善し，3年目で自分の色を出す」

鹿児島県立奄美高等学校  
事務主事 秋葉翔太

はじめに，鹿児島県公立学校事務職員協会創立 65 周年を迎えられましたこと，心よりお喜び申し上げます。今回協会史を発行するにあたり，私がこれまでの業務で感じたことや取り組んだこと，奄美大島という自然豊かな場所に来て感じたことを執筆させていただきます。

私が担当している業務は授業料や就学支援金，奨学のための給付金など，生徒や保護者と直接関わる業務が多いため，窓口や電話対応ではスムーズかつ丁寧な対応を心がけています。これらの業務を通して，書類の内容や記入の仕方，提出する書類についての問い合わせや期限内に全員の書類がそろわないことなどの現状を目の当たりにし，「相手の立場に立って考える」ことを大切にしながら，書類を作成する際は，相手に分かりやすく，見やすい書類を作成しようと心がけました。例えば，保護者に少しでも理解してもらえるように表や図，文字のサイズなどを工夫し，保護者から見て分かりやすい書類や記入例の作成を行いました。また，書類の回収率が上がるように提出用の封筒を目立つオレンジ色にするなどの工夫を重ねました。それらのことが功を奏し，今年度は「書き方が分からない」などの問い合わせの件数も少なく，書類の回収率も上がったように思います。このようなことから，「相手の立場に立って考える」ことが大切だと実感しました。今後も，そのことを忘れず，日々精進していきたいと思います。

県庁での辞令交付式の日「1日でもはやく仕事を覚えよう」とやる気に満ちあふれていた私も，3年目を迎えました。振り返るとあっという間でした。初めて奄美大島に来たときは海と山のすばらしさに圧倒され，飛行機から見た景色は今でも覚えています。また，シュノーケリングをした時の感動は今でも忘れられません。エメラルドグリーンに輝く海に潜ると熱帯魚やウミガメを近くで見ることができ，まるで別世界にいるようでした。このような素敵な場所が世界自然遺産に登録されたことを嬉しく思うと共に，この地で働いていることをとても誇りに思います。一方で，最初の頃は業務内容を覚えることに苦労しましたが，上司や先輩から叱咤激励を受け，多くのことを学ばせていただきました。社会人としての常識をはじめ，仕事の進め方や人とのつながりを大切にすること，仕事でミスをしたときは再発防止を必ず考えることなど多くのことを学ばせていただきました。私の仕事のモットーは「素直な気持ちをもつ」ことであり，乾いたスポンジが水を吸うように上司や先輩から教えていただいたことを全て自分のものにできるように吸収し，さらにレベルアップしていこうと考えています。

最後になりますが，事務職員協会の方々が普段の業務に加え，事務様式集や質疑事項集，事務ソフト集などの編集もされていることに感謝しながら，学ばせていただいております。私もいつかは協会の一員として事務職員協会の業務や県外派遣研修などに参加し，他校の実態に触れることで自分の見聞を広めていきたいと考えています。今後も私は「1年目で学び，2年目で改善し，3年目で自分の色を出す」ことを意識して仕事に取り組んでいこうと思います。



## 本部理事 「雑感」

本 吉 恵

平成23年度から本部理事をさせていただき、10年経ちました。早いような…長いような…

きっかけは22年度末のある日、夕食の準備をしていると、「とある宴席」に空きが出たとの電話が。すぐに伺い、参加できなかった方の代わりに、いっぱいお酒をいただきました。そう、これは協会役員の会でした。

そのため、その4月に来た本部理事の依頼を断れず、10年経ってもその恩返しをしています。

最初は本部理事の仕事をよく理解していなかったのですが、長くやってみると、なんとなく分かってきたように思います。

本務である学校事務だけでは経験できない業務もあります。どちらかというと学校の仕事は、規則や事務処理要領などに基づき、正確・迅速に進めますが、一方本部理事の仕事は、過去の記録はありますが、正解がなく手探りで作り上げる部分もあります。例えば研究大会を開催するために、研修部や担当支部と協力しながら、参加者の満足度が上がるような内容を作っていきます。調査研究部とも、事務必携や様式の見直しに協力しながら、長期的に活用できるものを作っていきます。ほかにも、会員みなさんをお願いをしたりご意見を伺ったり、役員や部長の考えを聞き形にしたり、九州や全国理事会で県外の協会員のみなさんと会い情報を得たり…などなど。

そのように経験していくことで、仕事の幅や社会に対しての視野が多少広がった気がします。「この目標を達成するためにはどんな作業をしなければならないか、とかこの仕事はどんな結果に繋がるのか」と考えることが多くなったように思えます。

そんな中、昨年から未だ終わらない大変な疫病を経験しました。その中で人とのつながりが貴重だと改めて感じています。

協会の目的は、「会員相互の親睦と、緊密な連携のもとに学校事務の研究並びに、学校教育の進展に寄与する」ことです。会員お一人お一人によって具体的に求めるものは違うかと思いますが、協会の役割の一つは会員同士のつながりを大切にし、その中でそれぞれが何かを得られるようにすることだと思います。会員みなさまにとって意義のある協会になるよう、微力ながら引き続き協力させていただきたいと思っています。



## 協会との関わり

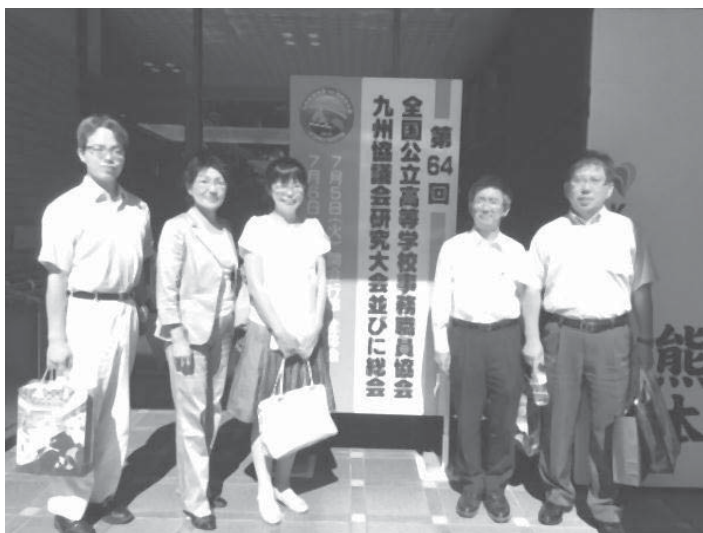
南大隅高校 福永伸一

私が協会との関わりは、平成12年度に夏の研究大会に参加したのが始まりでした。高校に来て2年目で、毎日の業務から解放され「ほっ」と一息つくことができたのが「協会の場」でした。また、当時は同期で採用された人たちもまだ高校には来てなくて地区以外の事務職員の人たちの顔と名前を覚えるいい機会でした。

その後、数年してから平成18年度の研究大会で、当時の所属していた学校の発表支部にあたり「研究発表」に携わったのが本格的に「協会」の長い関わりの始まりでした。研究発表で2年間、その後1年を挟んだあとに「O A部」で6年間、協会の本部理事で5年間、副会長で今が3年目になります。当時を振り返ると「前会長」の坂ノ上四雄さんとの関わりがものすごく大きかったです。協会から発する文書の書き方、ひとつの仕事の流れや周りの係の人たちとの関わりや連絡・調整など教えていただきました。ひとつひとつが貴重な財産です。

協会の仕事について当時を振り返ると、学校の業務が終わってからが「協会の仕事」でした。時間が足りないと思うこともたびたびでした。また、協会の仕事を引き受けるにあたり、まわりの事務職員の人たちの理解やご協力していただいた事が大変ありがたかったです。本部理事になってからは、九州地区の鹿児島県外の方たちとの関わりが増えました。各県の事務職員の様子や業務内容、地域の特殊性、そして各県の協会との交流がとても楽しかったです。九州協議会の理事会が1月と6月にあり、一般参加ではわからない「舞台裏側」の様子を知ることができました。理事会の後には必ず懇親会があり、ご当地のお酒やおいしい季節の料理など役員の人たちとの会話に花が咲きました。今は「コロナ禍」で以前のような人との交流や催しができませんが、数年後には復活できることを祈っています。

鹿児島県は他県と違い、「学校事務職員」のノウハウや今まで蓄積された経験・知識など永年受け継がれ、毎日の「業務」がとても順調です。それは、事務職員の採用区分や異動に伴う「校種」の流れなど様々な条件もありますが、歴代の「協会」に携わってきた方たちの貴重な業績の証（あかし）だと思います。そしてそれは、自分たちが享受してきた貴重な財産を途切れさすことなく次の世代の事務職員に引き継がなくてはいけないと思います。なかなか先の見通しが定まらない現在の状況ですが、必ず打破できることを信じて協会の仕事も学校の自分の仕事も頑張っていこうと思います。



第64回九州協議会研究大会（熊本大会）

## 編集後記

令和2年度の当初に、「事務職員協会」のあゆみを記しておくべきだと話題になり、協会史の発行にむけて準備をし始めました。まず、歴代の役員方々の「名簿づくり」からスタートし、「令和」から「平成」の20年代・10年代等々遡っていくうちに「誰々事務長」がこのときは「部長」でとか、この方が役員でされていたのかなどびっくりすることもありました。歴代の役員等は総会資料を遡り、九州大会（鹿児島大会）は平成19年度と平成27年度を中心に冊子やら資料などを読んでいきました。19年度の資料は、会場での進行や発言の「音源データ」をテープから筆記し、活字として残してありました。歴代の先輩方のご苦勞を思うと胸が熱くありました。

また、夏休みに毎年開催される研究大会の15年間ぐらいをまとめると、当時の発表体験を懐かしく思い出したりもしました。今回、多くの方々から寄稿をいただき感謝の言葉ありません。各支部長のみなさま、会員のみなさまにこの場をお借りして御礼申し上げます。諸先輩方の思いを受け継ぎ、今後も研鑽を積んでいきたいと思ひます。

### <令和3年度 鹿児島県公立学校事務職員協会役員>

役 職	学校名	氏名
会 長	鹿 児 島 盲 学 校	増田 幸宏
副 会 長	( 調 査 研 究 部 付 )	国 分 高 等 学 校
	( 研 修 部 付 )	鹿屋工業高等学校
		南大隅高等学校
	( I T 班 付 )	鶴 丸 高 等 学 校
支 部 長	( 鹿 児 島 支 部 )	伊集院高等学校
	( 南 薩 支 部 )	穎 娃 高 等 学 校
	( 北 薩 支 部 )	鶴 翔 高 等 学 校
	( 始 良 ・ 伊 佐 支 部 )	加 治 木 高 等 学 校
	( 大 隅 支 部 )	鹿 屋 養 護 学 校
	( 熊 毛 支 部 )	中 種 子 養 護 学 校
	( 大 島 支 部 )	奄 美 高 等 学 校
監 事		川 内 高 等 学 校
		大 口 高 等 学 校
本部理事	( 調 査 研 究 部 付 )	出 水 養 護 学 校
	( 会 計 )	鹿 児 島 盲 学 校
専門部長	( 調 査 研 究 部 )	薩南工業高等学校
	( 研 修 部 )	鹿 屋 高 等 学 校
I T 班 長		川内商工高等学校